

文章題テスト・説明／論説(1)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(4)は段落の番号です。)

① 近ごろは、真壁しんかべづくりの家が少なくなりました。木造建築アが少なくなったためです。しかし、木造家屋を「大壁」というつくりにするものが多くなったせいもあります。大壁というのは、板や合板やビニールクロスで家の骨組みほねぐみをおおい、柱を見えなくした壁のことです。大壁にすると、壁が家をささえている西洋の家にに似てきます。

② 大壁が主流になったのは、人々の好みと生活様式が、洋風になったためでしょう。しかしそれは、家のためには決して好ましいことではありません。日本は、高温多湿しつの季節がある国です。そういう国で、木材を、通気性のない外装そうと内装うちそうの間まにとじこめると、家をささえている大事な柱が、むれてヨワイくなってしまうからです。日本ニに真壁づくりが生まれたのには、それなりのわけがあるのです。

③ 木は、柱や板になってからも、生きて呼吸こきゅうしています。ですから、イキウがつけるように、せめて家の中ぐらいいは、柱をむき出しにしておいたほうがいい。一〇センチ角、長さ三メートルの柱一本は、ビールびん一本分の湿気を、吸すったり放出したりしています。柱をむき出しにしておけば、それだけの湿度を調節することができます。

④ 住まいを近代化すること、洋風にすることはちがいます。真壁づくりは、日本ニの風土ふうどに合った構造エです。木の美しさや、大工さんの技術オも生きてきます。壁は、合板や石こうに変えてもかまいません。しかし、柱を空気にふれさせる構造は、ぜひ復活ふっかつしてほしいものです。
(河津かわづ 千代ちよ「知っていますか 日本の自然と木の文化」より)

(注) 真壁——柱と柱の間をうずめる形でつくられる壁

1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

オ



